

森林

レンジャー

がゆく

(4)

森のたね



それがだれが
はたしょう
ミでしよう
クルの
ク食べ
この食

毎日暑い日が続いていま
すね。秋には、レンジャー
としても活動しやすい気温
になるのでしょうか。のん
びり森を歩くだけでも楽し
い季節ですが、森歩きの楽
しみを一つ紹介します。

私は森を歩くとき、足元をよく観察します。マムシなどの危険生物や安全なルートを確認するのはもちろんですが、落とし物を探しているのです。私の言う落とし物は「羽根」「足あと」「食べあと」「フン」など、動物の痕跡あとと植物の実やたねです。中でも、動物のフンを見つけるとワクワクします。なぜかというところ、フンの大きさや形、食べた物でどんな動物のものかおおよそ分かるからです。

例えばテン。テンはイタチに似ていてひと回り大きい雑食性の哺乳類です。フンは直径1センチ位で細長く、果実のたねがよく混

じります。5月から7月にかけて戸倉の盆堀へ見所発掘調査に行きました。この時期に発見したテンのフンの中には、直径1ミリ位と5ミリ位の丸いたねが消化されずにたくさん混じっていました。このたねから推測すると、木苺いちじくや桜の実を好んで食べていたようです。テンが食べている木苺を見つけて食べてみると、甘酸っぱくて美味しいのです。木苺の人氣が分かります。このほかにも、あきる野の森では多くの落とし物を見つけることができるので、多様な動物が生息できる環境であると分かります。

落とし物として消化され

ずに森に落とされた「たね」を想像してみてください。動物に実を食べてもらい、遠くまで運ばれそして落とされたたねは、いくつかは芽を出すでしょう。やがて、その芽が生長し実をつけ、また動物の食物になるのです。動物にとつては生きるための食物ですが、植物にとつては子孫を残す方法です。そして、森を作るためには植物と動物のどちらも必要な存在なのです。野生生物を感じるだけでなく、森と野生生物のつながりを知る落とし物探し。森歩きの楽しみにいかがですか？

加瀬澤恭子